

2013 年度 FD カンファレンス概要

※内容は変更になる可能性がありますので、ご承知おきください。

テーマ：「学生が真に学ぶためのしかけとしくみ」

教育改革に対する社会からの要求は強くなる一方で、文部科学省や産業界からも、大学に対し絶え間なく要求が出されています。しかしこれらの要求はすべて、「学生はいかに学び、その学びの質をどのように確保し深めることができるか」という問いに集約されます。この研修では二日間にわたって、大学の目指す教育とその方針、評価のしかた、学生の学びの目的と構造、そして私たちはそれに個人として如何に貢献できるか、などの異なった視点から、上の問いにアプローチして行きたいと思います。

全体プログラム

ALL-WS1：「研修の目的を設定する」（加藤善子）

二日間の研修を始めるにあたり、それぞれの目標を設定していきます。いくつかのワークをとおして互いを知り、信州大学の教員同士が興味関心を共有することも目的にしています。

ALL-L1：大学生はどこで何を学んでいるのか ―学習成果としての汎用的能力―（吉原恵子）

近年、大学教育において、教え込み中心の教育から学習者主体の教育へとまなざしが変化するとともに、大学生が身につけることを期待される能力の設定とその育成に関心が集まっています。そのような流れのなかで、学習成果をどのように捉え、どのように測るのが重要な課題となっています。そこで、本レクチャーでは、あらためて学習成果とは何かを学生の視点に立って考えます。とくに、学生にとって学びとは何かを「学生がどこで何を学んでいる」と感じているのかを中心として、汎用的能力に関する調査データ等をもとに見ていきます。

ALL-WS2：まとめとアンケート（加藤善子）

二日間の研修で、各先生方にとってどのような成果があったかをふりかえります。評価を行った後、解散です。

FD 研修：(A)

A1-WS：「組織の目標、私たちの目標、私の目標」（加藤鉦三）

大学には中期目標・中期計画があり、学部には部局事業計画があります。私たち一般の教職員にとって、これらは「自分の目標・計画である」という実感があるのでしょうか？もしそういう実感がなければ、それは組織として大きな問題ではないのでしょうか？ このセッションでは、組織の目標を個人一人一人とどうやってつないで行ったらいいのかを、参加者全員で考えていきたいと思います。

A2-L/WS : GPA を活かす成績評価—シミュレーションから見る期待と課題— (矢部正之)

本学で導入を予定している GPA 制度は、単に成績評定の平均値を出すだけではなく、それを教育、学生指導に活かして、学生の成長に資することを目標にしています。この導入に向けて、昨年度から、素点入力された成績データに基づき、導入後の GPA の動向を予想し、上記目的に沿った制度設計、周辺整備を検討しています。本 WS では、このデータの一部を紹介し、参加者の皆さんに、GPA 導入とその活用に関する課題、提案について、成績評価を中心に検討していただきます。

A3-L/WS : ジェネリックスキルを個々の授業科目の達成目標に入れ込むには (吉原恵子)

大学の教育目標は、個々の授業での教育実践を通して達成されるものです。私たちそれぞれが、それぞれの授業で大学の教育目標を入れこんで、学部の専門教育を実現するとともに、学生がジェネリックスキルを獲得し、達成感を得られる方法を探ります。

新任教員 FD 研修 : (B)

B1- WS : 信州大学の学生について (李敏)

信州大学の学生の実態と特徴について、大学生調査のデータに基づき、インプット (進学)、スループット (在学中の学習態度、生活経験等)、アウトカム (学習成果、大学の評価) という 3 つの角度から分析を行います。特に学生の属性、学習態度と経験が、学習結果及び大学に対する評価に対し、どのような影響を及ぼすのかを考察します。そのうえで、信州大学の学生の特徴に応じて、どのような教育と指導を行うべきなのかを一緒に議論します。

B2- WS : アサーション・トレーニング (加藤善子)

教員の多くは学生の気持ちを理解しようと努め、対等に接しようと努力していますが、一部の学生は、それに甘んじて必要な指示に従わなかったり、時になれ合いに陥ったりします。相手の立場を否定することなく、あるいは高圧的になることなく、必要なことをきちんと伝え、相手に行動を促すための話し方を練習します。

B3-WS : アドミッション・ポリシーと教育の質の保証 (雨森聡)

本学の各学部では既にアドミッション・ポリシー (AP) を策定していますが、今もなお AP の明確化や AP を含む 3 つのポリシーの体系化が求められています。本 WS では、3 つのポリシー、とくに AP と教育の質の保証のあり方について、本学が掲げているポリシーをもとに考えたいと思います。

担当者：

吉原恵子：兵庫大学 FD 委員長・生涯福祉学部長

矢部正之：信州大学高等教育研究センター副センター長

加藤鉦三：信州大学高等教育研究センター

加藤善子：信州大学高等教育研究センター

李 敏：信州大学高等教育研究センター

雨森 聡：信州大学アドミッションセンター